職場からの挑戦

世代交代は突然に

仙台機関区分会

仙台機関区分会は運転、技術、管理、青年部など約180名の組合員で構成されています。今年2月に定期大会を開催し、役員体制の若返り、世代交代をはかりました。どこの職場でも世代交代は大きな課題であると思います。私たちも様々なレクリエーションや活動を通して貨物労組の運動を継承してくれる若手を育てようと努力してきました。執行委員や部会役員など担い手が育ってきましたが、役員の中心となる分会長はまだ先と考えていました。

そのような中、前分会長が一身上の都合で早期退職することがきっかけで事態は起こりました。誰も分会長をやるという若手は現れず、いずれは世代交代をしていこうと思っていた若手役員は悩みました。「知識も、自信もない、急にあとは継げない」若手役員は苦悩しました。

12月に予定していた分会定期大会を延期し地本、支部も巻き込み約1ヶ月みんなで悩みました。最初は口の重かった若い役員も「ひとり一人の考え方や気分、組織強化のためにはどうしていくのか、本音の議論がされました。

結果として、若手役員が腹を決め自分たちが主体的に様々な役員を担うことを決意しました。

分会長は数年年配者が担いますが、その後若い役員が担うことが確認され、また人に任せず、執行委員に、全員で分会を強化していくことが確認されました。

世代交代に必要なのは「やる気」と「決意」でした。今仙台機関区分会は以前よりも強い絆で結ばれ、若手のやる気にあふれた組織に生まれ変わろうとしています。

技術継承に向けて

関東地本技術部会

関東地本技術部会は、東京・高崎・新潟・長野支部の検修職場から構成され、職場で発生する問題の解決に向けて日々活動しています。

早急に解決しなければならない課題として要員・技術継承問題があります。

職場によっては5～6年新規採用の配属がなく、基準人員割れも発生しています。また、将来に不安を持ち退職していく若い部会員も少なくありません。年々一斉点検や改修工事が増える中で、安全な車両を提供するために頑張っていますが、業務で精一杯になり教育する時間・要員がいないのが現状です。これでは鉄道固有の技術は失われてしまいます。そうならないためにも平成29年度以降の定期的な新規採用を目指し関東地本、他部会と連携し取り組んで行きます。また、部会の平和の取り組みとして常任委員全員で「戦争法廃止」の集会等に参加もしています。

関東技術部会として安全を最優先とした魅力ある検修職場を構築するために各級機関と連携し取り組むとともに、「たしろ応援プロジェクト」強化に向けて部会員一丸となり取り組んでいきます。

関東地本マラソン大会開催!!

2016年4月16日、千代田区・皇居周辺のコースにおいて第16回マラソン大会を開催しました。当日は暖かい陽気のマラソン日和で、20代から60代までの健脚自慢の25名と応援の家族、準備も含めて38名の組合員が集まりました。

今回は5年ぶりにコースを皇居周辺に戻しましたが、大会の開催も当時より規制が厳しくなっており、周到な準備の下で開催となりました。参加者は皇居を眺めながら5キロのコースを走り抜きました。20分を切る猛者も現れ、怪我もなく無事全員完走しました。終了後の懇親会ではマラソンの話や職場の話などで大いに盛り上がり、各々来年の大会に向けての意気込みを確認しました。

今後もサークル活動を通じて、団結力を高めていきます。

順　位

第１位…小川さん
（大井機関区）18分11秒

第２位…原川さん
（大井機関区）18分59秒

第３位…栗林さん
（神奈川臨海）19分34秒

Young Style

将来、働き続ける為に

本部青年部　副青年部長　**後藤修一**

新年度に入り郡山車両所へも今年度入社の新たな仲間が配属になりました。貨物労組に加入し7人だった分会青年部員も8人になり久し振りに職場が活気づいています。

しかし、基地問題という大きな課題を抱える中、未だに会社から明確な将来が示されてはおらず、不安を抱えて業務を行っています。会社の考える人、計画のもとに業務を行っていますが年々検査両数、基準人員を減らされ、団体作業においては個人の作業を止めなくては安全の確保が出来る作業が行えず、超勤を行わなければ仕事が回らない状況になっているのが実態です。

またどこの職場でもそうですが、数年後には大半の年配者は退職を迎える年齢になってしまい、技術継承の問題や郡山には検修に関わる嘱託先がない為、先輩の知識と技術を受け継いでいく若手がもっと必要であり、退職を迎えても郡山の地で働き続けていきたいという嘱託者の雇用の確保も課題となっています。

本部青年部として全国の青年部員と関わってきた中で、皆が最も問題意識を持っているのは自分の職場や賃金に関しての事が強いと感じました。今は「たしろかおる応援プロジェクト」の完遂に向け全勢力を傾けなければなりませんが、身近な問題にも目を向け取り組んでこそ職場で働く組合員も組合活動の重要性を再認識し更に大きな力に出来ると思っています。

組合活動の原点は職場での運動なのだと先輩から教えられてきましたが、今改めてそう感じています。自らの将来、職場の将来をしっかりと見据え、自ら考えて行動していかなければなりません。

厳しい現状の中、やらなければならない事は沢山あります。困っている仲間を助けられるように、そして共にたたかってくれる仲間を創れるようにこれからも組合活動に取り組んでいきたいと思います。

月刊 自然と人間
定価400円
年間4600円
労働者の視点で現代社会の矛盾に斬り込みます。
戦争反対の闘いを参院選につなげよう
青井未帆
蓄積された力で安倍政権の改憲阻止を!
前田哲男　国策船舶会社で船員囲い込み
青木理　高市大臣「停波」発言を許さない
浅野健一　栃木女児殺害事件で冤罪判決
島田興生　ビキニ核実験70年目の実相
連載
森　達也
大谷昭宏
秋山豊寛
魚柄仁之助
田中千世子